

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700475		
法人名	有限会社 ビバグループ		
事業所名	グループホーム ビバ南ヶ丘		
所在地	北海道岩見沢市志文町998-51 (電話) 0126-23-1018		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年2月25日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年3月20日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造2階準耐火 造り		
	3階建ての 2~3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	12,000~17,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合償却の有無
食材料費	朝食	円	昼食
	夕食	円	おやつ
	または1日当たり		840円

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	6名	男性	2名	女性	4名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5			要支援2		
年齢	平均	80歳	最低	59歳	最高
				94歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内内科循環器科医院、竹内歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の同業者と認知症ケアネットワークを組織して、サービス実践の改善や職員の研修制度を充実させてケアサービスの質の向上に取り組んでいるグループホームです。町内会老人クラブ主催のお誕生会への参加や市担当者が出席する運営推進会議の開催、定期的に発行する「南ヶ丘通信」で利用者の日常生活の様子やホーム主催の行事の案内を町内会に回覧するなど地域との交流促進に努め、認知症に対する理解や啓発に取り組んでいます。広い共用空間では、身体機能の維持・向上のために吹き抜けの階段を利用して歩行訓練やリハビリを支援したり、気分転換や心身のリフレッシュのための動物園見学や紅葉ツアー、温泉入浴など外出の機会も多く作られています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、緊急時の対応について改善点があげられていましたが、火災避難訓練の実施や救急救命訓練、設備の点検など緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように実技を伴う訓練が定期的実施され改善されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 経営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解して、評価を活かして職員間で話し合い具体的改善に取り組んでいます。また、外部評価の結果については運営推進会議で報告され、そこでの意見がサービス向上に活かされています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在4回実施されています。主な議題についてはサービスの利用状況について ホーム主催の「お誕生会」について 地域交流について 実地指導の報告について 要望・助言・意見交換
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 「南ヶ丘通信」を毎月発行して、餅つきやお誕生会のホーム主催のイベントの案内や利用者一人ひとりの家族に日常生活の様子など写真を掲載した近況報告が行われています。また、利用料金を毎月持参戴き、利用者と家族の親睦の場の提供や職員と日常的に話し合いや苦情・要望、意見を表せる機会を工夫して創出しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会老人クラブの行事参加や定期的に発行する「南ヶ丘通信」で利用者の日常生活の様子やホーム主催の行事の案内を町内会に回覧するなど地域との交流促進に努めて認知症の理解や啓発に取り組んでいます。また、運営推進委員には町内会役員や地域の民生委員、市担当者などが参加してそこでの意見がケアサービスの質の向上に活かされています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、全ての職員が参加して作られて「利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービス」として職員間で共有されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎月開催される全体会議やミーティングを通じて理念を共有し、その実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会老人クラブの行事参加や「南ヶ丘通信」で利用者の日常生活の様子やホーム主催の行事の案内を町内会に回覧するなど地域との交流促進に努めています。また、運営推進委員には町内会役員や医師、民生委員、市担当者などが参加してそこでの意見がケアサービスの質の向上に活かされています。		今後は、包括支援センターや保健所の協力を得ながら地域で口腔ケアや感染症予防などの講習会を実施していく計画が検討されている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	経営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解して、評価を活かして職員間で話し合い具体的改善に取り組んでいます。また、外部評価の結果については運営推進会議で報告され、そこでの意見がサービス向上に活かされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については評価日現在4回開催されている。メンバーは利用者、家族、医師、町内会役員、他施設の介護支援専門員、民生委員、市担当者、経営者・管理者及び職員で構成され具体的に活動に取り組んでいる。</p>		<p>今後は、委員にホームでの実際の利用者の暮らしぶりや行事参加の様子、火災避難訓練などの取り組みについて意見を戴く運営推進会議を実施する計画が検討されている。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の議事録は、行政（市担当者）に報告し、サービスの質の向上に日々取り組んでいる。また、市担当者との連携の重要性については十分理解している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「南ヶ丘通信」を毎月発行して、餅つきやお誕生会のホーム主催のイベントの案内や利用者一人ひとりの家族に日常生活の様子など写真を掲載した近況報告が行われています。また、金銭管理については毎月家族に報告しています。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用料金を毎月持参戴き、利用者と家族の親睦の場の提供や職員と日常的に話し合いや苦情・要望、意見を表せる機会を工夫して創出しています。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>経営者、管理者は職員の資格取得やスキルアップのための取り組みの支援を行い、離職などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。</p>		<p>特筆すべき点として、大正琴やフラダンスなど利用者の楽しみごとに職員が一生懸命取り組んでいる。ケアサービスに対する職員の想いが伝わってきた。</p>


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>地域の同業者と認知症ケアネットワークを組織して、サービス実践の改善や職員の研修制度を充実させていると共に協議会や市主催の講習会など外部の研修参加が奨励され実施されている。また、職員の資格取得を奨励して支援されている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域で認知症ケアネットワークを組織して、職員の研修制度や相互訪問が行われケアサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、入居前には家族との見学や職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>センター方式を利用して、利用者の過去の大事な出来事や生活歴を把握している。また、調理方法や味付けなど本人から教えて戴くなど共に支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者一人ひとりの思いや意向の把握にセンター方式に取り組んでいる。また、近隣公園への散歩やスーパーでの買物、温泉入浴やラーメンなどの外食、地域の行事への参加など本人の希望や意向を尊重した取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画は作成されて利用者、家族の希望や医師からの助言、職員からの意見を取り入れ具体的になっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護支援専門員が中心となってモニタリングやケア会議を適時して、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、通院への支援や散歩、買物、焼肉やラーメンなどの外食、紅葉狩りや円山動物園などへのドライブなど柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医療機関、主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について本人・家族の意志が確認され、職員間で共有されている。今後の検討課題として、家族との協力体制を考慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月開催される全体会議やミーティングで、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけなど話し合われ実践されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望や思いを把握して、刺し子やぬり絵などの趣味への支援や町内の散歩、スーパーでの買物、持続可能な生活を送れるように歩行訓練をするなど支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、調理の手伝いや盛り付け、配膳・下膳、野菜の皮むきなど職員と利用者が一緒になって行っている。また、和やかな食事風景でした。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週1～3回を目安に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴が把握され、野菜の皮むきなどの調理の準備や散歩、買物、外食などの気晴らしの支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、温泉入浴、紅葉狩りや動物園、長沼までのドライブ、焼肉やラーメンなどの外食など戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関は、鍵をかけずに自由に入出入りできる。また、利用者が外出する時は、職員がさりげなく見守り安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>緊急時に速やかに対応が出来るように実技を伴う火災避難訓練や救急救命訓練が実施され体制が整っている。</p>		<p>今後は、さらに日ごろより地域の人達の協力が得られるように運営推進会議で働きかけを行う計画がされています。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>塩分計で個別の塩分の増減や嚥下状態などによる支援も実施されている。また、具体的な水分や食事の摂取量が把握され個々に応じた対応がされている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>1ユニットのグループホームで全体的に広くゆったりして採光が採り入れられ明るい。また、利用者が気になる音の大きさや臭い、光の強さは感じられない。吹き抜けの広い階段では、身体機能の維持・向上のための歩行訓練も支援されている。居室は10畳と広く、家族の宿泊にも対応されている。窓からは、隣接している森林に住むリスや野鳥が眺められ楽しみごとになっていると共に開放感が感じられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、ソファや椅子、テーブルなど使い慣れた家具などが持ち込まれ本人が安心して過ごせる場となっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。